

「尾瀬ヶ原サイト」の調査を実施しました

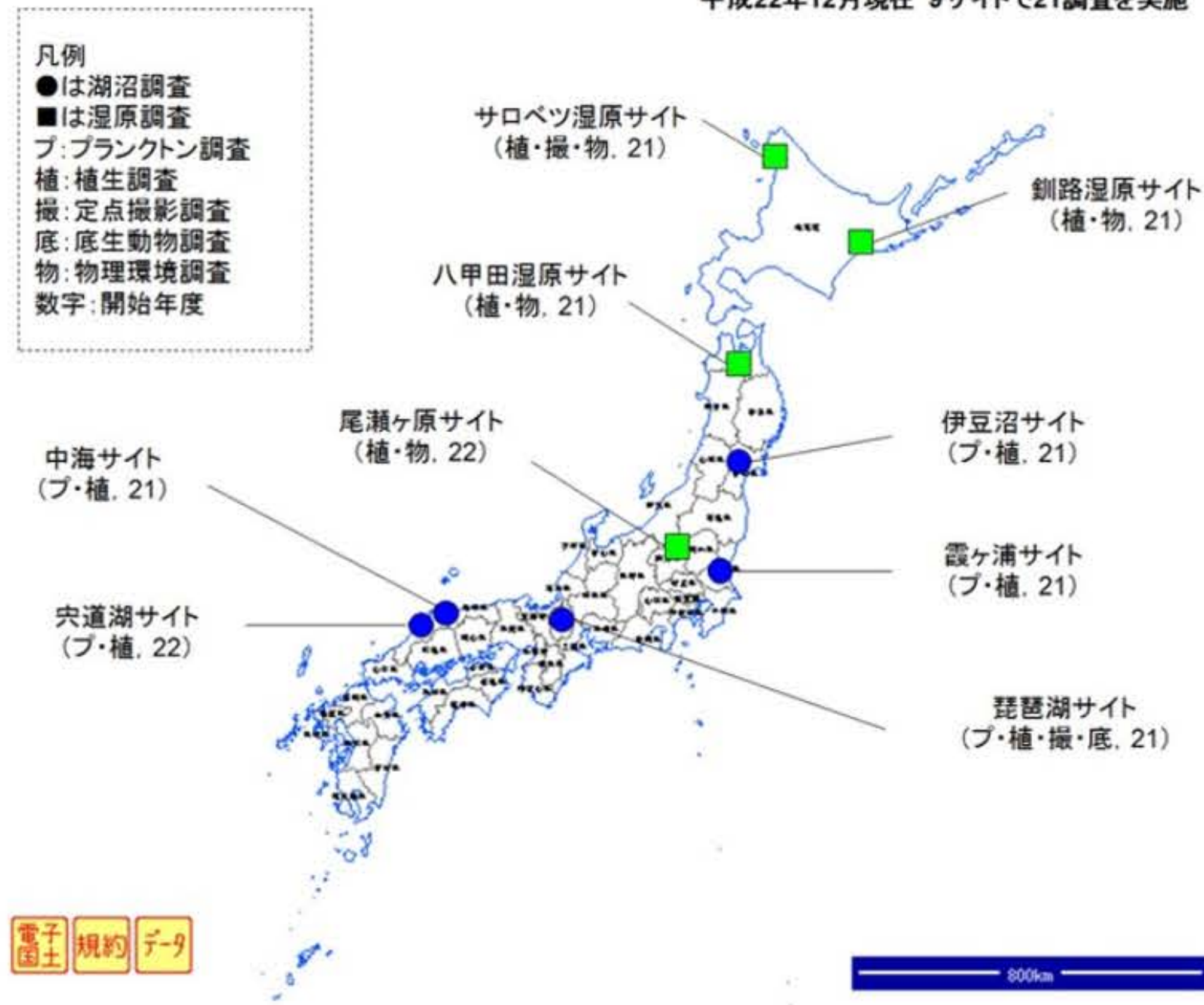
モニタリングサイト1000陸水域（湿原）調査の植生調査を2010年9月6日～8日に尾瀬ヶ原湿原で実施しました。この調査には、以下の関係機関にご協力いただきました。

- ・（独）国立環境研究所アジア自然共生研究グループ流域生態系研究室
- ・（財）尾瀬保護財団

尾瀬ヶ原サイトは、今年度から調査を実施しました。本州最大の山岳湿原である尾瀬ヶ原は、昭和24（1949年）年に日光国立公園の一部として指定されました。現在は、平成19年（2007年）8月30日に誕生した「尾瀬国立公園」の一部をなしています。

尾瀬ヶ原は学術的価値が高く、全域が国立公園の特別保護地区に指定されています。また、平成17年（2005年）1月にはラムサール条約にも登録されています。

平成22年12月現在 9サイトで21調査を実施



調査・分析風景

尾瀬ヶ原サイトの景観（2010年9月7日撮影）



調査日は、幸い天候にも恵まれました。調査の際、湿原内には必要最小限の人数で立ち入るなど、湿原環境にも配慮しながら実施しました。



コドラート等の設置風景



コドラートと温度等の計測器

今回の調査では、これから同じ場所で植生調査を行うために複数のコドラート（方形枠）を配置しました。また、環境変化をとらえるために、気温、地温、水位を自動的に計測する装置を設置しました。



植生調査



水生植物が生える池塘（ちとう）

植生調査は、コドラート内での植物種ごとの被度（どれくらいの割合で、どのような種が生育しているか）などを記録しました。尾瀬ヶ原湿原には、「池塘（ちとう；池漥とも書く）」と呼ばれる小さな水溜りが多くあります。一部の池塘では、水温の自動計測器も設置しました。

